

未来投資会議（第9回）後の  
石原経済再生担当大臣記者会見要旨

- 日 時 : 平成29年5月30日（火）18:50～19:00
- 場 所 : 中央合同庁舎8号館1階S101・103 会見室

1. 冒頭発言

第9回「未来投資会議」の概要を申し上げます。

本日は、「未来投資戦略2017」の素案を議論しました。

まず、これまでの議論を振り返りつつ、未来投資会議の議員の先生方、構造改革徹底推進会合の各会長の先生方が、それぞれ、素案について、一人の有識者として、また「Society 5.0」という社会を実現するための当事者として、思いを述べられました。後ほど、詳細については事務方から紹介します。

成長戦略は、「未来投資戦略2017」として生まれ変わります。今朝の会見でも質問がございましたので少し触れましたが、そのポイントを紹介します。

第1に、強みが活きる戦略分野に政策資源を集中します。我が国にとって避けては通れない、また、実現しなければならない「健康寿命の延伸」、あるいは中山間地域や人手不足のなかでの「移動革命の実現」などの5つの分野を中心に進めます。

第2に、分野横断的にデータを利用し連携させるための、データ・プラットフォームを構築します。公共データを民間ニーズの高い分野で徹底的に開放していきます。利用できるデータでなければ意味がないと考えております。

第3に、個人、あるいはSociety 5.0という社会の中にありましては、個人に着目した、いわゆる学び直し、リカレント教育も大事です。これへの支援などを中核として、国民のIT力を集中的に強化します。

第4に、参加者や期間を限定した上で試行錯誤をあえて認める、規制の「サンドボックス」制度を導入します。総理もおっしゃっていますけれど、「まずはやってみる」の精神を政策立案にも取り入れます。

第5に、あらゆる地域、企業、人々、観光資源をつなげて、地域経済を豊かにします。

本日の議論をふまえ、与党の側からも提言をいただいておりますので、与党とのプロセスなど最終調整を行い、閣議決定に向け作業を加速させます。

本日の会議のポイントについて、私からは以上です。

## 2. 質疑応答

(問) 今回の成長戦略について、生活や現場への影響も詳しく説明されていて、とても身近な内容になっていると思うのですが、一方で、当初の成長戦略では、国際競争力をつけるであったりとか、企業が元気になって、その恩恵が労働者にも回ってくるという思想が強かったように思うのですが、そのあたりの変化について、大臣はどのようにお考えですか。

(答) ここは最初の頃に会議のメンバーと徹底的に議論しました。個々の企業が国際競争力をつけて競争に打ち勝つことが、これまでの成長戦略のスタンダードだったと思うのですが、今私たちの身の回りに起こっている変化では、インターネットというツールを使って、地方にありながら中央とつながっている、個でありながら集団とつながっている。このように今まで経験したことのない状況です。世界はある意味小さくなっています。そういう社会の中で、世界で何が起こっているかということ、アメリカを見ましても、この前のフランスの大統領選挙を見ましても、技術の革新に取り残されている人と、技術を活用して富を得た人との間に軋轢も生まれている。そういうことを考えた時に、第4次産業革命というものはツールであり、このツールを使って、目指すべき社会が何なのか。それが Society 5.0 である超スマート社会で、社会の隅々でテクノロジーやイノベーションに、誰もが接することができる社会を目指していこうと、今回は民間議員の皆様との議論の中で整理をさせていただき、このような形になっているわけであります。個々の例としては、先ほど説明させていただきましたので、申しませんけれども、日本は実はそのような分野で蓄積があり、やろうと思えば何でもすぐにできると思います。ただ、例えば自動運転にしても、これまでの関係省庁の規制があり、そういうものを取り除いて、国民の皆様だれもが IT 力を身に着けることができるようになる。そういう方向で、Society 5.0 でこんなに変わったのだと、誰もがイノベーションの世界の中で恩恵を受けることができる社会を創っていく。そこが欧米で起こっている大きな地殻変動と、我が国は違う道を進むという意味での整理になっていると御理解いただけると思います。